

令和4年10月14日

保護者各位

鳥栖市立田代小学校

校長 槇原 さゆり

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要について（お知らせ）

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されましたので、その調査結果をもとに本校の結果について分析をしました。結果の概要についてお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

### 1 令和4年度全国学力・学習状況調査について

令和4年4月19日、下記のような内容で全国一斉に小学校6年生を対象として実施されました。調査内容は、次のとおりです。

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
調査問題では、①と②が一体的に問われています。
(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して調査されています。

### 2 教科に関する調査結果から全国平均正答率と比較して見える本校児童の姿

#### (1) 国語について

- ・ 国語の平均正答率は、全国正答率とほぼ同じ程度でした。特に前半の調査問題の無回答率が低く、じっくり丁寧に読み取ろうとする実直な姿勢がうかがえました。
- ・ 観点別では、「知識及び技能」においてはほぼ全国の前正答率と同程度でした。漢字の使い方や適切な言葉の使い方など、国語の基本的な力がおおよそ定着しており、日々の学習の積み重ねができていると考えられます。一方、「思考力・判断力・表現力等」の内容においては、全国正答率をやや下回りました。領域別では、「話すこと・聞くこと」については、高い正答率となっており、学習中の話し合い活動や意見交流が子ども達の国語の力として根付いてきているようです。しかし、「読むこと」において低い正答率となり、物語の背景を考えながら読む力や、叙述に即して読み取る力に課題が見られました。想像豊かに読む力を培っていくため、選ぶ本の種類や内容などについての読書指導を行っていきます。
- ・ 記述式や選択式といった、問題形式による正答率の差は認められませんでした。調査問題前半の記述問題は全国正答率を大きく上回っており、自分の考えを書くことに対する意欲の高さがうかがえました。一方で、後半の方では無回答率が高くなっていましたので、短い時間で端的に文章の構成や要旨を掴む力も高めていきたいと思えます。

#### (2) 算数について

- ・ 算数の正答率は、全国平均をやや上回る結果となりました。国語同様に、調査問題の後半に進むにつれ無回答率が高くなってはいましたが、問題を丁寧に読んだりじっくり自分の考えをまとめたりしようと努めた結果であったと考えられます。

- ・ 観点別では、「知識・技能」においては、全国正答率とそれほど変わらない結果でしたが、「思考・判断・表現」に関しては、全国正答率と比べ高い正答率でした。領域別で見ると、「式と計算」や「データの活用」についてはよくできていましたが、「変化と関係」に課題が見られました。割合の意味をとらえ、そこから比べられる量やもとにする量を把握していく学習について習熟させる指導を、今後も行っていきます。
- ・ 問題形式で見ると、特に記述問題で高い正答率でした。意味を考えて立式したり、数量の求め方を予想したりするだけでなく、それについて筋道を立てて説明する力がついてきていると考えられます。今後も引き続き、与えられた文章や図、表などから必要なことを考えたり、一定の条件の中で答えをまとめたりする力を育てる指導を行っていきます。

### (3)理科について

- ・ 理科の正答率は、全国平均を少し下回りました。無回答率の傾向は、全国と大きな差はありませんでした。
- ・ 観点別で見ると、「思考・判断・表現」よりも「知識・技能」の正答率が全国と比べて低い結果でした。また、領域別で見ると、「生命」を柱とする領域に最も課題が見られました。生物の記録や観察の仕方について、再確認させる必要があると考えられます。
- ・ 問題形式で見ると、短答式の問題に課題が見られました。理科の用語や実験器具の名称など、基本的な事項に抜け落ちている部分があると考えられます。今後は、家庭学習に理科を取り入れる頻度を高め、単元毎に出てくる基本的な事項が習熟していくように図っていきます。また、全体の中で特に正答率の低かった問いは、実験結果の考察やまとめに関するものでした。実験結果とそこから考えられることを区別してとらえ、自分の言葉で表現していくことを日頃の学習でも重視していきます。

## 3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果から見える本校児童の姿

○全69の質問項目から、全国と比較したときに概ね良好な結果であった項目について

質問項目	本校の割合(%)	全国の割合(%)
朝食を毎日食べていますか。[食べている・どちらかと言えば食べている]	96.5%	94.5%
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。[寝ている・どちらかといえば寝ている]	94.7%	81.5%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。[思う・どちらかといえば思う]	100.0%	96.9%
学校に行くのは楽しいと思いますか。[思う・どちらかといえば思う]	94.7%	85.4%
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。[している・どちらかといえばしている]	96.4%	71.1%
算数の授業で学習したことは、普段の生活の中で活用できないか考えますか。[考える・どちらかといえば考える]	93.0%	69.3%
将来の夢や目標を持っていますか。[持っている・どちらかといえば持っている]	93.0%	79.8%

- ・ 朝食については、全国平均を少し上回る結果でした。また、就寝時刻についても、ある程度安定している児童が多いようでした。併せて、毎日同じくらいの時刻に起きている児童が96.4%という結果で、基本的な生活習慣の根幹が整っていることがうかがえました。
- ・ いじめについての質問には、全ての児童が肯定的な回答をしていました。また、学校に行くのを楽しんでいる児童の割合も全国と比べて高い結果でした。学校生活を楽しく過ごすためにも、「いじめを許さない」という一人一人の意識を高めておく必要があります。児童の現在の気持ちを、今後も継続し、さらに高めていくために、引き続き指導を行っていきます。
- ・ 家庭での学習に対し、進んで取り組もうとしている児童が多いようでした。本校では6年生の家庭学習目標時間を70分と設定していますが、家庭学習時間に関する質問では、月～金曜日の1日当たりの家庭学習時間が「1時間未満」と答えた児童は42.1%でした。今後、授業とつながる課題、自主的にじっくり取り組める課題等、家庭学習の課題の見直しや工夫を行うとともに、家庭学習の大切さについても継続して指導していきます。

- ・ 将来について、夢や目標を持っていると答えた児童が全国と比べても多い割合でした。今後も、学校生活と家庭生活をどちらも充実させていくことで、一人一人が有用感を感じながら安心して過ごし、成長できるのではないかと考えます。

#### 4 今後の改善策（児童の力をさらに伸ばすために）

- ・ 児童がより意欲的・主体的に学ぶことができるよう児童の対話を大切にしたい授業づくりを継続するとともに、考えたことを自分の言葉でまとめる活動も充実させていきます。また、定期的に既習学習の基礎・基本の定着を図ったり、「ふりかえるくん週間」を設定し、自分の頑張りや課題を振り返らせ、意欲の継続を促したりして、学習規律・習慣の充実を図ります。
- ・ 家庭学習の充実に向けて、自主学習の取組も推奨していきます。また、学級通信等を活用して家庭と連携しながら、望ましい生活習慣や学習習慣の定着を図ります。
- ・ 【家庭学習のしおり】を参考にご家庭でも次のようなことに心がけていただければと思います。

##### 1 家庭での学習環境を整え、学習時間を確保してください。

◎学習する場所や時間を決め、学習習慣を身に付けさせましょう。

◎テレビやゲームの時間やルールを決め、長時間にならないようにしましょう。

##### 2 生活のリズムを整え、お子さんとのコミュニケーションの時間を大切にしてください。

◎「早寝・早起き・朝ご飯」で、元気とやる気の出る体と心を育てましょう。

◎会話を多くもち、お子さんががんばった過程やできたことを大いにほめましょう。